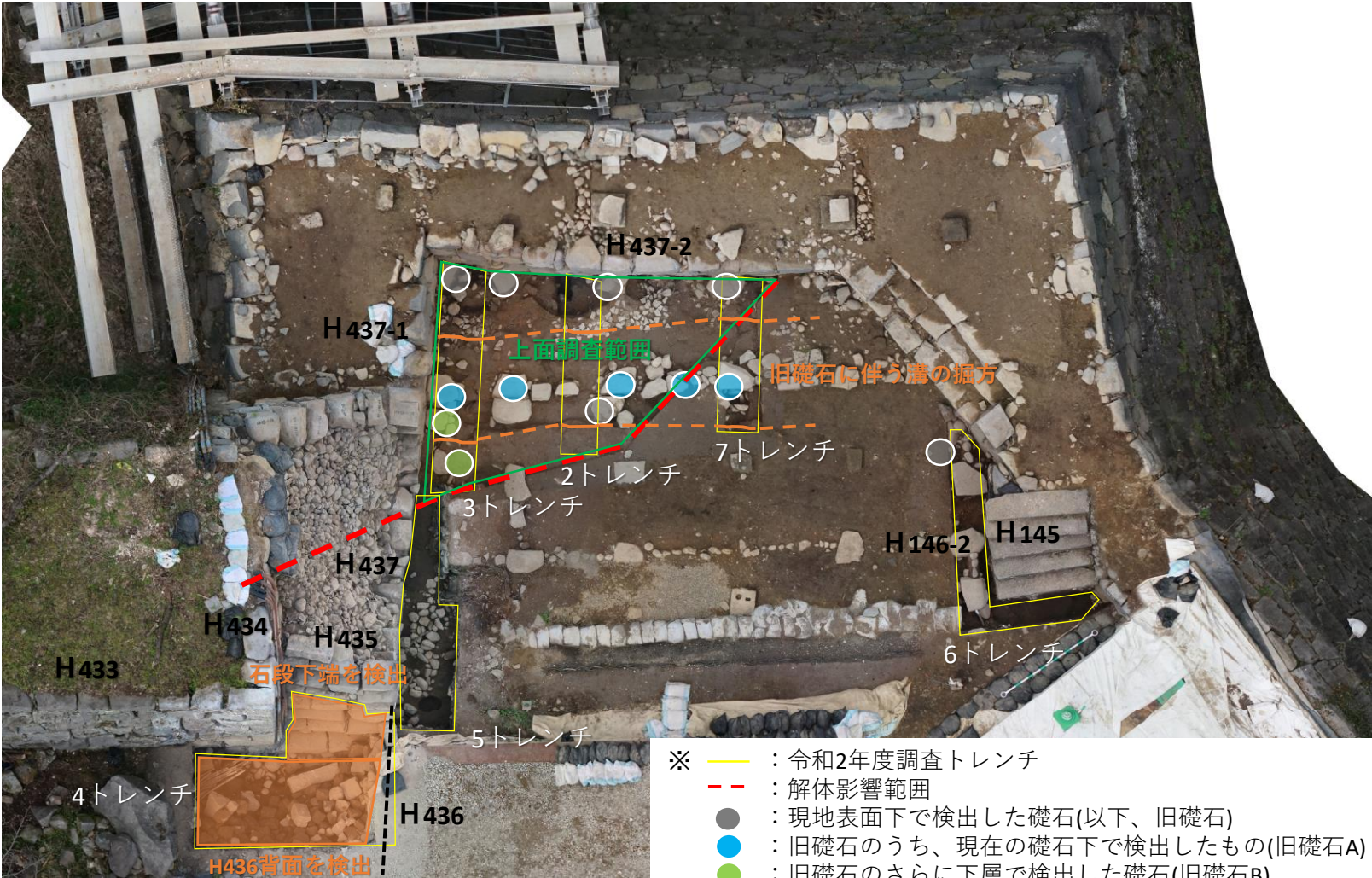
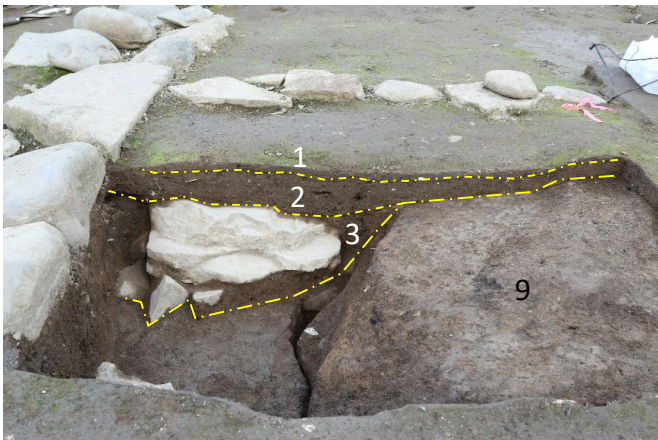


20201215WGで提示一部修正

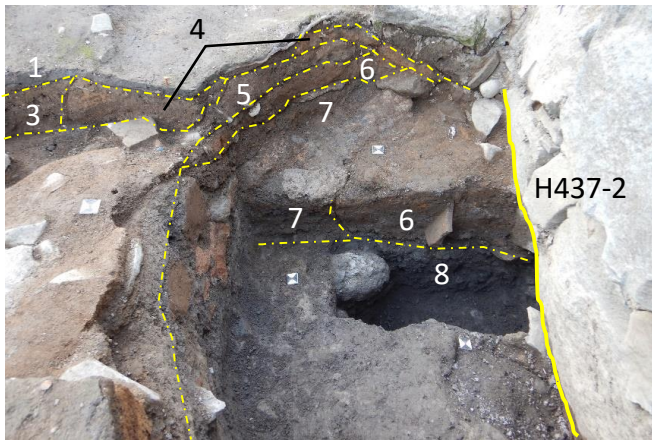
令和2年11月9日から発掘調査着手、12月25日終了。石垣基底部、遺構面の確認等を行った。2,3,7の各トレンチについては拡張し、解体影響範囲全体とした。今回の調査によって、江戸期と考えられる整地層の上面と礎石を検出した。また、4トレンチでWGの了承を得て石垣根入れを確認した。今後出土遺物を整理し、時期の検討を行う予定。



調査範囲と検出遺構位置図（上が北）



2トレンチ南側東壁（西から撮影）



2トレンチ北側西壁（東から撮影）
黄色実線で示すのがH437-2下端。第7層はH437-2下部に延びる

基本層序

- 1：表土
- 2：暗褐色土【現礎石掘方埋土】
(昭和29年解体修理時か)
- 3：暗褐色土【旧礎石掘方埋土】
- 4：黄褐色土【旧礎石に伴う整地土】
- 5：暗褐色土【旧礎石に伴う整地土】
※旧礎石は昭和29年解体修理以前に設置
※3・4層は同時期施工か
- 6：赤褐色土【江戸期の石垣修理に伴う埋土か】
- 7：ブロック土を含む暗灰色土
【江戸期の石垣修理に伴う埋土か】
- 8：軽石を含む暗灰色砂質土
- 9：灰白色土【江戸期整地土か】



上面調査範囲（東から撮影）
現代の礎石列の下、黄色の矢印で示す位置に旧礎石が検出された



上面調査範囲（北から撮影）
黄色の点線で囲んだ範囲に割石や瓦片が面的に広がっている。黄色の矢印で示すのは旧礎石



上面調査範囲南西部（北東から撮影）
礎石の新旧関係。現地表面上に露出する現礎石の下位に第1層を挟んで旧礎石Aが位置し、南に向けて小さい石を列状に配する。さらにその下位に旧礎石Bが検出されるため、旧礎石は2時期に分類できる

平櫓発掘調査報告（4トレンチ）



層序

- 1：表土
- 2：電気配管埋土
- 3：瓦・漆喰等含む橙色土【昭和53年以降の遺構面か】
- 4：栗石【昭和53年以降H436背面】
- 5：黒褐色土【H436構築以前の旧表土】
- 6：暗褐色土【江戸期堆積土か】

4トレンチ全景（北から撮影）



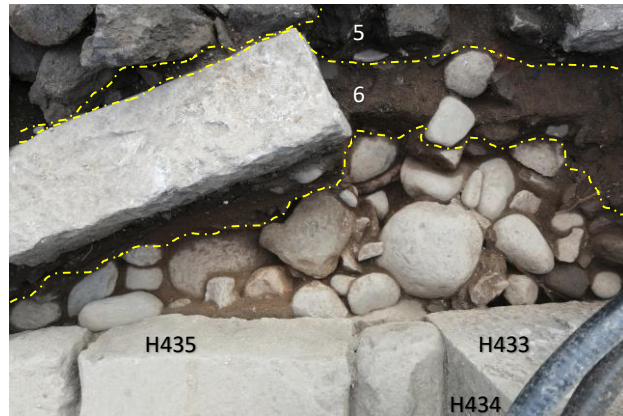
4トレンチ（東から撮影）

石垣H436裏込めは凝灰岩質の角礫で、石造物片が多数含まれる。石段H435下端は石垣H433根石と面を揃えている



4トレンチ底面（東から撮影）

石垣H433・434根石および石段H435下端の確認状況。いずれも底面で検出した円礫の上に乗っている状況が見て取れる



4トレンチ底面（北から撮影）

石垣H436裏込めの下部、第5層・第6層を挟んで円礫を検出した。円礫は石段H435、石垣H433下部に延びる



層序

- 1：表土
- 2：山砂を含む暗褐色土
- 3：礫を多量に含む暗褐色土
- 4：暗褐色土
- 5：漆喰を多量に含む黒色土
- 6：黒褐色土【平成整備以前の旧表土】→4トレンチ第5層
- 7：瓦等を多量に含む暗褐色土
- 8：暗褐色土【江戸期堆積土か】→4トレンチ第6層

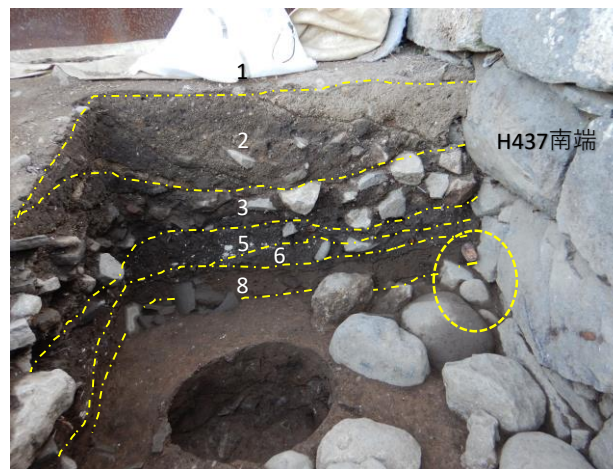
【平成整備時の盛土か】

5トレンチ東壁（東から撮影）



5トレンチ（南から撮影）

底面で円礫を検出した。4トレンチで検出したものと同様の性質の円礫と考えられる。黄色の点線で囲んだ円礫は石垣H437の下部に延びているが、その他の円礫は石垣H437築石に接して検出された



5トレンチ南壁（北から撮影）

現代の堆積層下に旧表土が一部観察できる。下層は暗褐色土で、4トレンチと同様の堆積状況である。なお、黄色の点線で囲んだ円礫は石垣H437南端の下部に延びている



5トレンチ北端（南から撮影）

黄色の点線で囲んだ部分に便槽に使用されたと推測される甕が出土した。昭和53年の瓦製雨落ち溝設置時に壊されている



層序

- 1：表土
 - 2：暗褐色土
 - 3：瓦を多量に含む褐灰色土
 - 4：暗灰色土
- 【上部の凝灰岩製階段（H145）設置時に伴う盛土か】

6 トレンチ北壁（南から撮影）



6 トレンチ（南西から撮影）
石段H145、石垣H146-2は黄色の一点鎖線で示す
現地表面上に構築されていることが確認できた。
黄色の矢印で示すのは旧礎石検出位置



6 トレンチ北端（南から撮影）
黄色の一点鎖線で示す表土直下で旧礎石を検出した



6 トレンチ東端底面（南から撮影）
黄色の一点鎖線で示す範囲で第4層を検出した。
この堆積土は上面調査範囲基本層序で第7層とした
「軽石を含む暗灰色砂質土」に近似している

- ・ 上面調査範囲および6,7トレンチで旧礎石を検出した。現礎石下では溝状の掘り込みを伴い、2時期に分かれる。
また、上面調査範囲北半、整地層上面に割石や瓦片の面的な広がりを検出した。
- ・ 4トレンチにおいて、WGの了承を得たうえでH433、H434 石垣根石を確認し、石段H435下端を検出した。H435下端は石垣H433根石と面を揃えている。
H436背面の裏込めは凝灰岩質の人頭大角礫で石造物片を多く含む。
トレンチ底面ではH433、H435の下に延びる円礫を検出した。5トレンチ底面で検出した円礫も同様の性質のものと考えられる。
- ・ 6トレンチでは石段H145および石垣H146-2が現地表面上に構築されていることが確認できた。
- ・ 2トレンチ北端で検出された暗灰色砂質土層は厚さ50cm以上堆積しており、H437-2石垣基底の下に延びている。今回の調査では栗石は検出できず、さらに深く堆積していると推測する。また、6トレンチ底面からは土質が近似する暗灰色砂質土層を検出している。